



Zephyros⁹²

国立西洋美術館ニュース

ゼフュロス

ISSN 1342-8071

西洋絵画、どこから見るか？ ― ルネサンスから印象派まで

サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館

会期：2025年3月11日[火]－6月8日[日] | 会場：企画展示室



1



2



3

本展は、米国のサンディエゴ美術館との共同企画により、同館と国立西洋美術館の所蔵する計88点を組み合わせ、それらの対話を通じてルネサンスから19世紀に至る幅広い西洋美術の魅力とその流れを紹介する展覧会です。

サンディエゴ美術館は、1915年に開催されたパナマ＝カリフォルニア博覧会の会場に1926年に開館し、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど世界各地の美術品を収蔵展示する美術館です。そのヨーロッパ絵画、とりわけオールドマスター絵画のコレクションの核は、主に1930年代に実業家の娘、パットナム姉妹の資金援助を受けて築かれたもので、当時のアメリカ合衆国西部では随一の質と規模を誇りました。その陣容は、アメリカの公的な性格の美術館としては珍しく、サンディエゴという土地の歴史・文



4



5

化性や、篤志家たちの趣味を色濃く反映したユニークな内容を誇り、初期ルネサンス絵画やスペイン17世紀絵画などに多くの傑作を有しています。特にファン・サンチェス・コターン作《マルメロ、キャベツ、メロンとキュウリのある静物》は、ボデゴンと呼ばれるスペインの静物画の最高傑作として広く知られるもので、本展のハイライトを成します。

いっぽう国立西洋美術館は、松方幸次郎の収集したコレクションに基づき、1959年に設立されました。当初の収蔵品は印象派を中心とした19世紀フランス美術に限られましたが、1960年代末よりオールドマスター絵画の体系的な収集を開始しました。以降、歴代の館長や研究員の調査研究に基づいて、西洋美術史の主要な流派やジャンルを網羅にカバーする総合的なコレクションの形成を目指して収集活動が続けられています。

本展は、西洋美術史の教科書的な概観を目指すものではありません。同一作家の作品など、両館のコレクションの重複するエリアを重点的に扱うことで優れた所蔵品をこれまでにない角度から掘り下げ、両館の収蔵品の対話を通じ、作品の新たな魅力を紹介することを目指します。また、サンディエゴと東京は、ヨーロッパから見た世界のいわば「西端」と「極東」に位置します。両者は太平洋によって隔てられ、収集の経緯も異なります。しかし、作品が制作された地から遠く離れ、異なる文化環境においてヨーロッパ美術を収集した点において共通します。本展ではその点に着目し、両館の持つ傑作を比較対照させながら、それぞれ西洋絵画がどのような目的や理想に基づいて収集されていったのかについても、紹介する予定です。

なお、本展開催中、常設展では、サンディエゴ美術館所蔵作品より5点の絵画を展示し、さらなるコレクションの対話を試みます。

[国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]

- 1 マリー＝ガブリエル・カベ《自画像》1783年頃 油彩、カンヴァス
国立西洋美術館
- 2 ホアキン・ソローリャ《ラ・グランハのマリア》
1907年 油彩、カンヴァス サンディエゴ美術館
© San Diego Museum of Art
- 3 ファン・サンチェス・コターン《マルメロ、キャベツ、メロンとキュウリのある静物》
1602年頃 油彩、カンヴァス サンディエゴ美術館
© San Diego Museum of Art
- 4 ジョルジョーネ《男性の肖像》
1506年 油彩、板 サンディエゴ美術館 © San Diego Museum of Art
- 5 ペルナルディーノ・ルーニニ《マグダラのマリアの回心》
1520年頃 油彩、板 サンディエゴ美術館 © San Diego Museum of Art

梶コレクション展

色彩の宝石、エマーユの美

会期：2025年3月11日[火]－6月15日[日]

会場：版画素描展示室

新たな春の訪れとともに開催される次回の小企画展では、新たに当館に仲間入りしたコレクションを紹介します。「エマーユ」という言葉を聞いてピンとくるでしょうか。これは七宝に相当するフランス語で、金属の素地にガラス釉を焼きつけた作品を意味します。昨年の12月、そのエマーユ約150点が、ジュエリーアーティストの梶光夫氏から当館に寄贈されました。本展では時をおかずして、この「梶コレクション」の全貌を公開します。

寄贈品は19世紀後半から20世紀初頭のフランスで制作されたものを中心に、コインほどの小さなエマーユから、ジュエリー、小箱、さらに額装された大ぶりのエマーユまで、多彩な内容で構成されています。その多くにアール・ヌーヴォー時代の息吹を感じ取ることができることも、梶コレクションの大きな魅力のひとつです。今回の企画では、寄贈品以外に梶氏が所蔵するアルフォンス・ミュシャのポスターやアール・ヌーヴォー期のブロンズ、家具等を加えて、当時の美術や工芸の豊かな世界の一端を感じ取ることができるような展示空間を目指します。

エマーユの最大の魅力は鮮やかな色彩と繊細なきらめきです。そのまばゆい光を目にすると、美しさは物自体に宿るのではなく、輝きの中で生まれてくるような気がします。その意味では、エマーユも宝石も何ら変わるところはありません。そうした魅惑的な光に満たされた小さな展示室に、ぜひお越しください。

[国立西洋美術館主任研究員 飯塚隆]



ポール・ボノー《ルネサンス期
ファッションの若い女性》
1907年
国立西洋美術館 梶コレクション



シャルル・ルベック
《ヴィーナスが描かれた脚付盃》
1863年
国立西洋美術館 梶コレクション

2024年度新規収蔵作品より

ラヴィニア・フォンターナ

《アントニエッタ・ゴンザレスの肖像》

1595年? 油彩、カンヴァス 54.5 x 47 cm



きらびやかな衣装を着てこちらを見つめる少女。しかし長い毛に覆われたその顔は通常と異なります。いったいこの少女は何者なのでしょう？ 種明かしは彼女が持つ手紙にあります。そこには身の上が記されていて、ここから少女は名をアントニエッタといい、パルマの貴族イザベッラ・パッラヴィチーノ侯爵夫人のもとに身を寄せていることが分かります。

顔が毛に覆われる体質は父親からの遺伝です。彼は少年時代にフランス宮廷に連れてこられ、そこで育ちます。やがて通常の女性と結婚しますが、生まれた子供たちのうち数人にも多毛の性質は受け継がれました。一家はきわめて有名な存在となり、通常と異なるものを自然の驚異として珍重した各地の宮廷からは、その肖像画が求められました。本人たちもまた宮廷をさすうらうことになり、パリからブリュッセルを経てイタリアのパルマに落ち着きます。ここでアントニエッタは有力貴族パッラヴィチーノ侯爵夫人に預けられたのでしょう。侯爵夫人に連れられてボローニャに赴いた際は、この町の有名な博物学者ウリッセ・アルドロヴァンディと面会しました。近代科学の黎明期にあって、彼女はかっこうの考察対象とされました。

作者のラヴィニア・フォンターナはボローニャの画家。西洋美術史上初めて本職の画家として成功を収めた女性として知られます。表情や衣服の装飾を精緻かつ色鮮やかに描き出す手法はこの画家ならではのものです。

[国立西洋美術館学芸課長 渡辺晋輔]

フェーデ・ガリツィア
《ホロフェルネスの首を持つユディト》

1622年頃 油彩、カンヴァス 127 x 95.5 cm



フェーデ・ガリツィアは17世紀初頭のミラノで活躍した女性画家です。彼女はカラヴァッジョと並び、イタリアにおいて最初に静物画を手掛けた画家として主に知られますが、存命中は物語画も含めた多ジャンルに活躍した画家でした。特に「ホロフェルネスの首を持つユディト」という主題に関しては現在7点の油彩が知られており、当館が購入した作品は2023年に初めて紹介されたもので、最も晩年の作品に位置付けられます。

ユディトは、旧約聖書の外典に登場するユダヤの女性で、故郷ベトリアに攻め入った敵軍の将軍ホロフェルネスを己の美貌で誘惑し、泥酔させて斬殺した救国のヒロインでした。この物語を記した『ユディト記』は1592年にカトリック教会から正典として認められ、以降彼女は異教徒に対する勝利をもたらす英雄として、頻繁に造形化されることになります。

また、この主題はアルテミジア・ジェンティレスキやエリザベッタ・シラーニなど17世紀イタリアの女性画家が頻繁に手掛けています。そこには、男性中心的な当時の画家社会において、様々な苦労やしがらみを乗り越えて活躍した女性たちの自己投影が見られるのかもしれませんが。付き人の女性が持つずた袋の縁には、ホロフェルネスの首から滴る血で画家の署名が記されています。

本作は現在修復作業中であり、来年度以降展示の際には改めてお知らせをいたします。

〔国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介〕

News

特設サイト「みんなの3Dロダン図鑑」の公開を楽しみにしてくださっている皆様へ

昨年3月から7月にかけてご支援を募集した国立美術館のクラウドファンディング「『みんなの3Dロダン図鑑』をつくろう!」にご参加くださった皆様に、改めて心からのお礼を申し上げます。もともとロダンや彫刻作品、その3Dモデル化に興味があるといった方々だけでなく、西美の取り組みだから応援したい、西美のロダン作品をどこからでも見られるようになるのが楽しみといったお声をたくさんいただき、職員一同、大変嬉しく思いました。ご支援くださった皆様にとって「みんなの3Dロダン図鑑」がより魅力的なものになるよう尽力せねばならないと決意を新たにすると同時に、本件に関わらず、館全体としても皆様の期待にお応えするような活動を続けていきたいという想いを強めることができた貴重な機会となりました。現在、1年以上をかけて計測してきたロダン彫刻60作品すべてのデータを3Dモデル化する作業と、「みんなの3Dロダン図鑑」に搭載する様々な動画コンテンツの制作を並行して行っています。ご支援いただいた皆様と、サイトを訪問くださるすべての方に彫刻の魅力を満喫いただけるサイトになるよう、公開に向けて準備を進めて参りますので、今後も本プロジェクトを見守っていただけますと幸いです。



〔国立西洋美術館経営企画・広報渉外室 隈部理香子〕



返礼品やサイトの制作状況は、引き続き「国立美術館のクラウドファンディングサイト」活動レポートにて発信しております。

News

あたらしい世界遺産パンフレット

国立西洋美術館は7ヵ国17資産で構成される世界遺産「ル・コルビュジェの建築作品 ― 近代建築運動への顕著な貢献 ―」の構成資産のひとつです。この魅力をお伝えするパンフレットが新しくなりました。パンフレットのサイズやページの配置はル・コルビュジェが考案した『モデュロール』の寸法体系を使用しています。日本語・英語・中国語・韓国語の版を表す色は建物で使われている色に合わせています。ジャバラ折9ページのパンフレットの表面は19世紀ホールとタイルをあしらい、1959年に開館した当時の写真を使って建物の見どころを紹介しています。裏面では開館当時と現在の航空写真、ル・コルビュジェの理論や世界遺産の構成資産を紹介しています。裏面表紙のモチーフは建物のどこの部分? どんな材料? など、今後当館のホームページやSNSでパンフレットの秘密をご紹介します予定です。ご来館の際はパンフレットの写真と目の前に広がる空間とを見比べながら、現在も変わらないル・コルビュジェの建築をお楽しみください。



〔国立西洋美術館主任研究員 福田京〕

[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30（食事11:00-16:45L.O. | 喫茶10:00-17:15L.O.）／金・土曜日10:00-20:00（食事11:00-19:10L.O. | 喫茶10:00-19:30L.O.）

[ミュージアムショップ]

当館の人気作3点をパッケージにし、それぞれ12粒のキャンディーを詰め合わせた「果汁飴」シリーズ。3作品は、マリー＝ガブリエル・カペ《自画像》、ポール・シニャック《サン＝トロペの港》、そしてクロード・モネの《睡蓮》です。中身のキャンディーの詰め合わせが異なりますので、作品だけでなくお好みの味で楽しく選んでいただきたい商品です。

《自画像》にはレモンといちご味が、《サン＝トロペの港》にはレモンとみかん味が、《睡蓮》にはりんごとみかん味が、どれも6粒ずつ合計12粒入っています。

200年以上続く老舗のお菓子屋さんが、国内産の果物にこだわって作ったキャンディーで、広島県産の大長レモン、いちごは福岡県産のあまおう、青森産の王林りんご、愛媛県産の温州みかんが使用されています。無着色、無香料で果物本来の旨味を楽しめます。口のなかで果汁の濃い甘みが広がります。



「果汁飴」各860円（税込み）

写真左からカペ《自画像》、シニャック《サン＝トロペの港》、モネ《睡蓮》
これらの商品は店頭販売のみです。

オンラインショップ
<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式 Instagram
@nmwatokyo_shop



展示カレンダー [企画展示 / 常設展示] 2025年2月-6月

2月 [Feb.]	3月 [Mar.]	4月 [Apr.]	5月 [May]	6月 [Jun.]
常設展				
[小企画展] —2月11日[火・祝] オーガス・ジョンとその時代 —松方コレクションから見た近代イギリス美術	全館休館 2月12日[水] ↓ 3月10日[月]	[小企画展] 3月11日[火]—6月15日[日] 梶コレクション展—色彩の宝石、エマユの美		
[企画展] —2月11日[火・祝] モネ 睡蓮のとき		[企画展] 3月11日[火]—6月8日[日] 西洋絵画、どこから見るか? —ルネサンスから印象派まで サンディエゴ美術館 vs 国立西洋美術館		

[開館時間] 9:30-17:30（毎週金・土曜日 9:30-20:00）*入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間、年末年始、臨時休館日

[臨時開館・展示替え休館のお知らせ]

臨時開館：2025年3月24日[月] | 展示替え休館：2025年2月12日[水]—3月10日[月]

[常設展無料観覧日] 2月9日*、3月16日*、4月13日*、5月11日*、5月18日（国際博物館の日）、6月8日*

（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

・展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。



[国立西洋美術館 SNS 公式アカウント]

X @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt
Instagram @NMWATokyo